



慶應義塾大学グローバルCOEプログラム 論理と感性の先端的教育研究拠点

慶應義塾大学 CARLS 哲学・文化人類学グループ 講演会 医療人類学の最前線 V I

診断の揺らぎ：鬱のジェンダー & こどもの心と病 ～ 精神医学と人類学の対話から

日時：2012年1月28日(土) 12:45~17:00

場所：慶應義塾大学三田キャンパス 東館6階 G-SEC Lab

- 東京都港区三田2-45-45
- J R 線田町駅、都営地下鉄三田線・浅草線三田駅、もしくは都営地下鉄大江戸線赤羽橋駅より徒歩10分
- <<http://www.keio.ac.jp/ja/access/mita.html>>(キャンパスマップ、3番の建物です)

「医療人類学の最前線」シリーズ6回目では、うつ病研究で大変著名なJonathan Metzl先生をお招きし、北米の精神科臨床から浮かび上がってくるうつ病診断と、ジェンダーについてお話いただきます。第二部では、近年日本でも急速に関心の集まっているこどもの心の病をとりあげ、精神医学の立場から、黒木俊秀先生にこどもの鬱を、田中康雄先生に発達障害をテーマにお話いただきます。また、文化人類学の立場から、照山絢子先生、堀口佐知子先生にご講演いただき、こどもの心の病の複雑さと「診断の揺らぎ」をめぐるさまざまな問題について考えてみたいと思います。

第一部 12:45-13:50 鬱のジェンダー

12:45-13:00 鬱のジェンダー 日本の視点
北中 淳子(慶應義塾大学：医療人類学)

13:00-13:50 Gender in the Diagnosis of Depression

Jonathan Metzl (Vanderbilt University：精神医学)

第二部 14:00-17:00 こどもの心と病

14:00-14:50 憂うつなる思春期、終わりなき思春期
黒木 俊秀(国立病院機構肥前精神医療センター：精神医学)

14:50-15:20 「ひきこもり当事者」・支援者の戦略とアイデンティティ：
「ひきこもり」ラベルを巡るダイナミクスを追う
堀口 佐知子(テンプル大学：文化人類学)

15:30-16:20 発達障害診断の揺らぎ・支援への戸惑いから柔軟性へ向けて
田中 康雄(北海道大学：精神医学)

16:20-16:40 発達障害者の語りから：オルタナティブな「当事者」性に向けて
照山 絢子(ミシガン大学：文化人類学)

16:40-17:00 コメント& 全体討論 宮坂 敬造(慶應義塾大学：文化人類学)

司会：北中 淳子(慶應義塾大学：医療人類学)

参加費無料です。事前登録の必要はありません(100人まで)。

主催・企画：慶大人文COE 哲学・文化人類学チーム <<http://www.carls.keio.ac.jp/>>

お問い合わせ先：濱 雄亮(慶應義塾大学文学部非常勤講師) <yusukehama@a6.keio.jp>